社会福祉法人鶴風会

後援会ニュース

No. 3（昭和50年）
社会福祉法人鶴風会
後援会
東京都武蔵村山市中藤3260
☎0425-61-2521
事務所・東京都中野区
本町2-15-13☎03-372-7650

後援会ニュース3号をお届けします。
今号は去る五月十五日、東京小児療育病院及び、みどり愛育園に皇太子、美智子妃両殿下をお迎えした時の様子と東京小児療育病院開院から現在に至るまでの療育十年のあゆみをあわせて掲載いたしました。

提供・女性自身

▽皇太子殿下御夫妻をお迎えして△

去る五月十五日、都下村山にある東京小児療育病院および、みどり愛育園に、皇太子、美智子妃両殿下が慰問のため御来院されました。

五月晴れの日、午後一時半御到着。車寄せの両側に並んでお出迎えした職員に会釈され、椅子に坐って迎えている子供達の一人一人に、ほほえみかけながら頭をなでられました。

まず院長室にて、本明理事長が御挨拶、そして幹部職員の紹介ののち、会議室にて理事長、藤永院長、藤田園長より、病院の建設趣旨、開院以来十年余の経過、および現状の説明を受けられ、ついで御視察にうつられました。

まず重症心身障害児を収容しているみどり愛育園。ここには約五十名の患児がおり、自分自身では身を動かす事すら出来ない子供がほとんどであり、重度の精神薄弱と重複している者が多く、三十余名の看護婦、助手、保母がすべての生活の世話をしています。両殿下は藤田園長の説明にうなずかれながら、熱心に見廻わられました。

小児療育病院では、藤永院長の御案内で廻わられましたが、ここはみどり愛育園と違い、補具を用いて歩いたり、這ったり、少しも目が離せない約八十名の入院児に六十名余の職員がつききりで面倒をみている様子を御覧になり大変な仕事と感じられた様です。

両殿下は子供達の中におはいりになり、しゃがんで話しかけられ、子供達のなかには「おばちゃん！」と呼びかけ、つかんだお手をはなさず一生懸命体を使い、頭を振って喜びを全身で表わしている子供達も沢山いました。

つぎの訓練棟では、機能回復訓練のため来院した三十名程の子供達の訓練の様子をつぶさに御覧になり、補足具をつけた子供が杖を支えに歩行練習をし、部屋に作られた階段を昇り降りし、又マットの上で腕を使って一生懸命に前へ進もうと頑張っているわが子の様子を側で真剣に見守っている母親と一緒になって励まされました。

廊下ですれ違うおばさんたちにも、「大変な仕事ですが、子供達

のためによろしく御願いいたします。」とお気遣いのお言葉がありました。

病棟御慰問のあと、会議室での職員懇談会に御出席になられ、各職場代表の人（看護婦、助手、保母、ケースワーカー、検査助手、栄養士、調理士）に日頃の職場での苦労話を具体的に聞かれ、御質問をはさまれながら、熱心に耳をかたむけられました。

また、脳性マヒの原因究明と予防方法確立の目的のために建設された脳性マヒ研究所について、その研究の現状、成果などのお尋ねがありました。両殿下とも心身障害児問題をよく御勉強されており、この早期療育に深く御関心を示され、職員にねぎらいとはげましのお言葉がありました。お帰りにも玄関前で御見送りする子供達の一人一人に話しかけられたり、お三人のお子様のおいでになる両殿下は事のほか感銘深い御様子に見受けられました。両殿下の国民の中に親しく入られ、実情を御自身の目で確かめようと御懸命な御様子がうかがえる御慰問でした。

福祉問題がマスコミに大きく取りあげられている現在、老人問題と共に、障害児の早期発見、早期療育という地味な仕事に精魂をかたむけている人達がいることを、一人でも多くの方々に御理解いただき、今後とも皆様方の物心両面にわたる御援助を賜りたく心より御願い申しあげます。

ゼロからの出発

——療育10年のあゆみ——

今から十五年前のことである。旧帝国女子医専（現東邦大学）の寒々とした会議室のストーブを囲みながら開かれた役員会の席上に一つの提案が持ち出された。

「医師でなくては——」「母親でなくては——」「女性でなくては——出来ない」、三つの特性をいかして社会に役立つ事業をはじめようではないかと言う意見であった。

当時、北海道ではポリオが猛威をふるい、全県一施設を目標に肢体不自由児施設の必要性がようやく認識されはじめた頃の事である。

さっそく、厚生省の母子衛生課に行き、資料、意見などを参考に検討を重ねたが、小児専門の病院をかねた、肢体不自由児の施設が欲しい、しかし、残念ながら予算がないとの当局の話であった。

当時の施設の入院患者は七〇％がポリオや先股脱、骨関節結核、ペルテスなどでCP児は約三〇％、CPの治療も早期ほど療育の効果があがることは整形外科医の常識であるが、多くの人手を必要とするために経営が困難で専門の療育施設はまだ、出来ていなかったのである。

CP児、早期療育のための専門施設——という構想は次第に明確になって来たが、土地があるわけでも、大口の寄附者があるわけでもなく、全くゼロからの出発と言ってよかった。

まず、設立委員の中でも特に社会事業に対して理解を持った者、今後、精神、経済の両面で苦難を耐え抜くことを誓いあった者が自費を集めて財団法人を作った。その後、大蔵省の指定寄附の許可もおり、後援会を設立して社会一般からの寄附を募ることが出来るようになったが、この資金集めに竜知恵子理事長以下の同窓の有志が中心となって奔走し、着工の見通しをつけるまでには約五年を要した。

その間、国有地払い下げの請願に関東財務局に日参し、約二年後の三十八年三月に現在の村山の土地五千坪を、払い下げてもらうことに成功した。

土地のつぎは病棟の建設工事であるが、いずれも限られた資金内での工事なのであれこれ業者を当ってみたが、支払い条件で折り合いがつかず断られ、増岡組の厚意でかろうじて着工することが出来たのは三十八年四月のことである。

翌三十九年三月、待望の工事完成、四月に開院式を迎え、院長以下三十四名の職員でスタートをきった。開院を待ちかねたように患者は全国から集って来た。

入院の動機別統計には両親の病気、母親の出産など、一時的に家庭療育が不可能になったもの、母親或いは両親の死亡、精神障害発病、家出などが記録されている。なかには両親の子供遺棄、継母による虐待などの痛ましいケースもあり、障害児を抱えた家庭の社会問題の一端をのぞかせている。

入院の申し込みが殺到し、まもなく病室の増築、訓練棟の新築に踏み切ることになった。

ベッドを百から百五十にふやすための資金集めの四年間は入院患者父母の会が大きな力となり、全国に散在する会員に募金を熱心に呼びかけ、又毎年末、銀座、新宿の寒い街道に一週間立ちつづけ、募金を呼びかけたカトリック学生連盟の尊い協力もあった。

昭和四十五年、病院本館二階病棟に重症心身障害児施設「みどり愛育園」が併設され、重症患児はそちらに移された。

同じ年、不就学児増加の対策として病院はベットサイドスクールを開設した。

それまではごく障害の軽い少数の子供が学校教育の機会を得るにすぎず、養護学校の不足という行政面の立ちおくれから、学校に行きたくとも行けない不就学児が院内に増加する一方であった。

提供・女性自身

四十八年四月、病院の隣接地に村山養護学校が開設され、一応この問題は解決した。

最近、ようやくCP児の早期療育が本格的に取りあげられるようになった。

しかし、まだまだ専門の施設は充分ではなく、在宅患児も多い。

健康な者でさえ住み難い世の中に、まして身体の不自由な者はその家族と共に世の片隅に追いやられてしまいがちな現在である。在宅患児の父母の過労、老後の不安など障害児を抱えた家庭の問題は際限なくひろがってゆくのである。

この施設の運営のむずかしさは看護職員の非定着性であり、この施設ばかりの問題ではない。

使命感と決意を持ってこの病院に来られた職員も、療育効果がなかなか上らないことや、充分に手をつくせないこと（職員不足のため）などのために挫折感を抱いて、ここを去ってゆくのである。他の障害児施設についても同様であろう。この事は困難な仕事でありながら、もはや民間の一施設の良心的努力の限界をこえ、行政面からの対策を確立しない限り、根本的な解決はむずかしい。

しかし、この病院は十年間、病院の職員、父母の会をはじめ、数多くのボランティアの方々の善意と奉仕にささえられて来た。

婦人団体、学生、一般市民の方々による、入院児の身の廻りの世話、遊び、被服、寝具の補修等の仕事が現在も続けられている。

開院十年を機会に後援会も再発足することになった。今までの御援助に感謝を捧げると共に、今後もこの民間の一施設の努力をあたたかく見守って下さるようお願いしたい。

▼お知らせ▲

■四十九年度、募金総額は七百九十八万八千八百六十円、御寄付いただいた方の延べ人数は一、一二七（含法人）名になりました。

■今年度募金額二千万円を目標として近藤竜一後援会長以下、理事、評議員一同努力いたしますので御支援をお願いします。

■脳性マヒの早期発見と療育の必要性はようやく一般にも認識されるようになり、マスコミにもたびたびとりあげられました。五十年一月、文化放送「お早う、日本列島」に倉島理事。二月、TBSテレビ「3時のあなた」に藤永院長、倉島理事がゲスト出演。

■現在、早期療育の実際と効果を紹介する映画を製作中でこれが四十九年十一月、東京新聞に紹介されました。

■四十九年十一月のチャリティーショーでの収益金は百十六万四千九百六十五円となりました。

■後援会役員

（会長）近藤竜一（副会長）森寿恵・五島瑳智子（会計）白石彰・上田葉（後援会ニュース）小川昭子・阿曽滋子（渉外）日野チヨコ・石川きみ子・鈴木文子・三辺幸子・臼井潔子・二宮文乃・安藤朋子・倉島摂子・（監事）中里玉子・柳沢浜子

■後援会ニュースは年二回発行予定です。紙面に皆様の御意見をとりあげて行きたいと思いますので、お気づきの点、病院見学の御希望などありましたら、後援会あてにお知らせ下さい。（後援会ニュース担当）小川昭子・阿曽滋子（事務局）長谷川千余子・柿沼英子

後援会会員ならびにご寄付者芳名

六一四名（四月・三～五〇・七）　アイウエオ順・敬称略

赤羽田鶴子・青木洋子・青木　馨
青木幹恵・天野まき子・青木よし子
荒井秀雄・荒牧シモ・芦刈典夫
秋葉喜代子・安西美代・相沢ミツエ
安倍マサ・阿曽滋子・安藤明子
安東敬子・青木　悦・荒川あや
阿部久代・阿部賢晤・天野悦男
朝倉照子・赤川セツ・赤坂　陽
阿部重正・厚味かよ子・赤垣美代子
赤池正次・阿波淑子・安達聡路
阿久津絹江・天沼恭子・飯田昭子
一藤木俊夫・井口洋一・井上瑞穂
井上幸子・池野ヨシ・市川高吉
今野信子・伊藤雪子・井上トキ
磯村　光・伊藤　礼・板倉玉子
今井俊子・稲垣玲子・磯　サワ子
石川静子・岩田立一
石北寿子・伊藤徳子・入戸野富士雄
伊村欣祐・伊藤友二・井上裕子
岩重泰子・一宮勝也・石川きみ子
伊藤公子・石塚勝定・市川登志子
飯鉢富子・家原小文治・飯田博義
磯部昌子・今関好江・石井　康
石川キク・内野モモヨ・臼井重三
内ケ崎仁子・上田正子・梅若六郎
牛見洋子・内田博之・内田貴士
上田茂・浦田とめ子・牛込荘一郎
梅宮次郎・鵜籠治子・梅原公江
梅村容子・江口米人・江田フジ
海老原貞子・江口芳枝・小川昭子
小川文子・小川再治・大嶋　功
大月富子・大久保秀雄・荻原すみ子
大谷明子・小田幸子・及川　貞
大岡良子・岡田孝子・小田けい
大下久代・小原正樹・大塚敬節
大池淑子・大池千賀子・太田文江
大野和子・大田常葉・太田　崇
小川　清・大本美弥子・奥野　浩
大浜博利・大野民夫・大槻正路
大江新太郎・大江光次・大橋軍次郎
王　鐘毓・及川　忠・織畑秀夫
大熊　進・長田安代・小川秀夫
大塚エミ・大河原正勝・小野沢純
織田秀子・大木英子・小野寺慶子
太田律子・大室輝雄・大森禎子
笠原　克・笠井　和・閑院純仁
加藤太郎・片桐義子・川合朝子
川島英世子・河原節・加藤無名子
川原タケ・勝見富美・川平武昭
釜范登志子・柏木美香子・加藤耕一
笠原好子・亀井正昭・風岡とき
河村やえ・金子忠子・河方延介
柿沼英子・神蔵寛次・蒲　内科
柏木政江・郭　博文・菊池桂助
北川フサ・木田信子・岸田俊夫
菊池エイ子・木下　佐・岸本義一
木内徴子・菊岡豊二・木下逸雄
紀部葉月枝・岸本孝・木村甲子郎
岸茂子・木下関次郎・岸本茂次郎
菊地永子・北村磯江・木下和子
菊池幸枝・倉島摂子・栗崎　碧
久木留節雄・桑原章吾・久保田くら
倉富孝子・熊田正義・栗田邦夫
倉田尚司・蔵方節子・栗田菊枝
蔵並きん・小渋雅亮・小島富子
高地孝子・小柳富士子・小出　誠
小松よう子・小山伊松・神津康雄
小松栄一・小林昭子・小林はるえ
後藤　真・児玉筆子・近藤澄子
小林義郎・小松伸弥・小池　脩
小泉　寿・小室　彬・駒林とめ子
小池トシ・近藤みさ子・小櫃温江
小関敏子・河野博太郎・古賀和子
小林佳江・後藤マン・沢田園子
佐々木明子・佐藤欣治・三辺幸子
斉藤イサヨ・坂本篤子・佐々木綾
斉藤英子・佐藤　朔・佐藤英俊
佐賀かほる・佐藤留治・坂元八千代
斉藤嘉一・佐久間勝美・指田隆之助
笹本善吉・堺田博雄・佐々木ハナ
斉藤幸市・佐々木庄八・坂本貞子
沢田篁子・佐藤瑞枝・三戸　緑
寒河江和子・佐藤義美・篠塚清志
正田二寿子・霜鳥トミ・白川令子
篠塚和子・白浜光子・柴田とら
柴本ふみえ・新保吉六・清水きみ子
嶋野　栄・下村弘毅・塩入円裕
椎野悦子・島野洋子・司城慶子
品田光江・清水克司・篠見克子
白石　勲・鈴木禎子・杉本寛子
菅井正朝・末吉実子・鈴木信宏
鈴木君子・鈴木竜太・鈴木淑子
寿永健二郎・須田経宇・杉田綾子
鈴木英岳・鈴木ミヨ・鈴木良子
杉田幸江・瀬戸富喜代・関　敦子
関川隆子・瀬尾　昇・関　静
関根嘉子・側垣恵子・田口キヌ
立田章雄・高橋蓉子・高田知加子
多田久男・田鍋庸子・田中満智子
高橋和子・立石直毅・武井英典
高尾三郎・谷口量子・高瀬晴夫
高野修・高山保・武谷ピニロピ
田島英一・武田昌員・立石正治
竹内文雄・高木輝雄・唐司みき子
高橋三代子・武田和恵・田中信子
高桑明子・高梨房子・高梨　旻
高橋幸子・高田小夜子・高木松枝
田郷寿正・竹下こと・多田正子
田村リツ・高橋たつ栄・高原恭子
谷彦礼子・田中まち子・田崎トシ
竹内美恵子・高橋朝子・滝　昭子
高田恭子・竹下紀美子・高橋里美枝
谷川智子・高城千尋・千島チエ子
近内友子・対木敦子・塚本貞子
津金修作・土屋久雄・塚本正子
筒井こてふ・槌谷涛雄・土屋洋子
辻　愛子・土屋満枝・手塚羔治
出井　道・寺本みや・陶山千佳子
徳永恵子・友田伊佐子・土肥静清
戸田芳江・豊田登喜子・豊田道子
道下富信・徳重隆幸・豊川美枝子
富樫千鶴・中島八重子・中里玉子
長野　昌・中館君枝・南条静代
中村富美代・中野敏江・長野文子
仲　道子・長沢幸代・中野　浩
永井　清・中川甲子・成毛ミチ子
成毛収一・中平貴子・中川圭一
中川礼子・長野政雄・永江清三
中島信次・中山年子・中村浩之
長浜レイ・中沢弥生・中根トミ江
長島シゲ・二宮睦治・二宮文乃
西村一良・西岡　将・西尾渉子
西村たま子・西浦正輝・西山イセ子
西丸恵子・西沢彦士郎・根本吉雄
野中久子・野崎成子・野沢多都美
野村章恒・野本善巳・野水志都子
野津ゆきの・野原　彰・馬場　進
八田孝子・蓮沼ゆき・林　堪子
林　光子・橋本国雄・橋本静子
浜田　雅・馬場紀子・蜂谷イソ子
半沢紀子・林　敬・原　美知
林　久子・原田住江・林　寿匡
萩谷淑子・萩沢　博・原　信子
波多隆一郎・林茂樹・林敬一郎
早田　貫・春山アイ・萩原恵子
日根野妙子・土方敬子・平林幸雄
平田三男・平山ゆき・久山　斌
比留川真・広川明子・平瀬直之
広瀬　章・弘瀬律子・平野一郎
日野久子・東野寿美・樋口正俊
福田千里・福井米子・船尾　求
福田静子・古野寿子・深見利子
藤本貞子・府川和枝・藤井玲子
福永ひろ子・藤野善臣・府川則子
藤岡美津子・福山幸夫・古川　明
福島美智子・麓喜代・藤田真之助
藤崎きよ・古田典子・藤井とし
堀友之進・堀口正夫・星野和子
本多マツ子・星野悦子・松下芳男
松沢義人・松岡知恵子・松野マサヨ
俣野昭一・柾　喜子・増田富士子
益田ゆみ子・町田純一・馬島　徹
前田寿馬・牧　甫・増田礼子
牧野忠夫・松永尚久・増山　守
松山雅彦・松井千尋・丸山礼子
松本喜久江・正林婦美子・前口道子
宮崎房子・宮崎君代・宮崎明子
三浦真一・水野房子・宮本みち
宮川千鶴子・二浦道子・宮本一郎
宮田　傳・三浦きよ・皆川忠義
三宅洋子・溝口美文・見須　華
宮下トシ・宮沢　香・三輪典子
三原喜隆・三輪篤信・村井トク
村上純一・村上リョウ・武藤寿剛
村野喜代・村田美代子・武藤文麿
村上竜男・村木　毅・村田憲三
室伏弘子・本橋　猛・百瀬貞子
森川幸江・森田てい・森崎幸夫
守田文彦・森下光子・森　迪子
森　金弥・柳沢浜子・山崎律子
八子富子・山田寛司・柳原美津子
山下文子・山口真一・山本仁也
安田千鶴子・山田潤史朗・柳原福代
山田三枝子・山崎孝一・山本徳治郎
山極幸雄・山本双葉・保田淑子
矢島　正・山岸さく・八坂　篤
山崎トキ子・山口裕代・山本常雄
八木義治・山住美津子・山崎義郎
山川昌一・柳田　阜・山口靖子
山本一枝・山岸旦子・山本道枝
山田喜久代・矢崎宏子・屋代英也
湯川玲子・湯浅英世・良田圭子
吉原和子・吉田千恵子・吉田征子
依田幸子・米田みね・吉松　博
吉原保則・吉田敬子・横川次男
横山正子・吉田トミ・吉田栄子
米林梅子・横小路三枝・竜　紀子
若杉まり子・渡辺古都江・渡辺和子
渡辺　茂・渡辺敏男・渡辺真帆美
渡辺　明・渡辺四郎・渡辺敬恵
渡辺恵子・渡辺満里子

大和証券㈱・銀座はらだ
藤川寿社中・久ケ原有志
東邦高習志会・東邦高河村ルーム
東邦大学・三菱電機㈱
中央大附属高三A・加藤薬品㈱
菊池眼科病院・東邦高一E
㈱梅新ビルディング